

様式3

公立大学法人静岡文化芸術大学

平成26事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

平成27年8月

静岡県公立大学法人評価委員会

## 第1 公立大学法人静岡文化芸術大学の平成26事業年度における業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」(H19.12.5制定)に基づき、平成26事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

### 1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

### 2 評価方法

- (1) 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。
- (2) 「全体評価」は、(3)の項目別評価を踏まえるとともに、当該年度の重点的な取組や法人の特性等に配慮しつつ、中期目標・中期計画の全体的な進捗状況を総合的に判断した。
- (3) 「項目別評価」は、法人による自己点検・評価の結果を基に、当該年度計画に定めた項目ごと、年度計画設定の妥当性も含めて総合的に検証を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況を確認した上で、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の4つの目標別に総合的に検証した。

## 第2 全体評価

### 1 評価結果と判断理由

#### (1) 評価結果

公立大学法人静岡文化芸術大学（以下「法人」という。）の平成26年度の業務実績に関しては、全体として「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

#### (2) 判断理由

法人は、静岡文化芸術大学が、豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材の育成と、“開かれた大学”として地域社会や国際社会の発展への貢献に取り組むよう計画を策定し、遂行している。

公立大学法人化後5年度目となる平成26年度は、中期目標・中期計画の達成に向けて仕上げの期間に入っており、昨年度に実施した当評価委員会の評価において指摘した事項の改善に努めながら、中期計画及び年度計画の達成に向けて教職員を挙げて取り組んでいる。

法人の中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について、「第3項目別評価」のとおり、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の全ての項目について、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と認められ、これらの状況と平成26年度の重点的な取組や法人の特性等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価が相当と判断した。

#### (3) 平成26年度の重点的な取組

##### ア 教育内容の充実について

第1期中期目標期間の当初から準備を進めてきた新教育課程や、再編後デザイン学部による教育を平成27年度から実施するに当たり、具体的な実施方法の調整や規程の整備等を着実に実行し円滑なスタートを切ったほか、英語・中国語教育センターにおいて新たに中国語の任期付教員を採用するなど、語学教育の充実に取り組んだ。

##### イ 学生支援の充実について

精神面に問題を抱える学生や発達障害の学生を支援するため、修学サポート室を設置し、新たに相談員を配置して個別相談を行ったほか、必要に応じて関係する教職員と情報共有を図るなど、きめ細かな指導を行った。

## ウ 広報の充実について

平成 27 年度から教育内容が大幅に改編されることに伴い、特設サイトを設け、学生や県民に教育内容を分かりやすく広報した。また、新たに中国語サイト及び中国語版大学案内を作成したほか、英語版大学案内を更新するなど、海外向けの広報を充実させた。

## 2 評価に当たっての意見、指摘等

- 平成 27 年度は、今期中期目標期間の最終年度であることから、残された期間において目標の着実な達成を図るとともに、今後の課題として取り組むべき事項を明確にするなど、平成 28 年度から始まる次期中期目標期間を見据えた法人運営を行っていくことを期待する。
- 業務実績報告書の自己評価の判断理由欄の記載について、実施した取組の具体的な内容やその取組に対する評価の記載が十分でない箇所が一部認められる。実績報告書は適切な評価を行う上で、基本的な資料となるため、より適切な記載を求める。

### [参考]項目別評価の結果

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
2 法人の経営に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
4 その他業務運営に関する重要目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある

### 第3 項目別評価

#### I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

##### 1 評価結果と判断理由

###### (1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

###### (2) 判断理由

大学の教育研究等の質の向上に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の63項目中8項目が「計画を上回って実施している」、54項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

###### (3) 特に評価する項目

- ・ 第1期中期目標期間の当初から準備を進めてきた新教育課程や、再編後デザイン学部による教育を平成27年度から実施するに当たり、具体的な実施方法の調整や規程の整備等を着実にを行い円滑なスタートを切った。
- ・ 語学教育を充実させるため、英語・中国語教育センターにおいて、新たに中国語の教員を1人配置したほか、英語の教員を1人増員し、4人体制とした。
- ・ 学部1～2年生向けに将来の進路について考える場を与えるため、キャリアデザインセミナーを実施するなど、早期からのキャリア教育を行った。
- ・ 精神面に問題を抱える学生や発達障害の学生を支援するため、修学サポート室を設置し、新たに相談員を配置して個別相談を行ったほか、必要に応じて関係する教職員と情報共有を図るなど、きめ細かな指導を行った。
- ・ 特別研究費の対象教員による研究成果発表会を初めて開催した。発表会には、教員や学生のほか社会人の参加もあった。また、機関紙「文化と芸術」に研究事業一覧を掲載した。
- ・ 和食がユネスコ無形文化遺産<sup>※1</sup>に登録されたことや、浜松市がユネスコ創造都市ネットワーク<sup>※2</sup>（音楽分野）へ加盟したことを受けて、関連するテーマの公開講座を実施した。また、市民や地域のニーズに対応した公開講座、セミナー、シンポジウム等を積極的に開催した結果、参加者が公立大学法人化以降で最多となった。

※1 ユネスコ無形文化遺産：芸能や伝統工芸技術などの形のない文化であって、土地の歴史や生活風習などと密接に関わっているもののこと。ユネスコの無形文化遺産保護条約では、無形文化遺産を保護し、相互に尊重する機運を高めるため、登録制度を実施している。

※2 ユネスコ創造都市ネットワーク：文学・映画・音楽・工芸・デザイン・メディアアート・食文化の創造産業の7分野から、世界でも特色ある都市をユネスコが認定するもの。認定された都市はその肩書きを商業的にアピールできる。

- ・ 新たにボローニャ大学（イタリア）と交流協定を締結し、留学生を1人派遣したほか、イズミール経済大学（トルコ）と交流協定に向けて協議した結果、平成27年度に協定を締結することが決まった。
- ・ 県教育委員会が企画したアカデミックチャレンジ事業を受託し、高校生に研究体験の機会を設けるなど、高大連携事業の推進に協力した。

#### (4) 課題とする項目

平成27年度推薦入試において入試ミスが発生したため、再発防止と信頼回復に向け、全学を挙げて取り組む必要がある。

## 2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 文化政策研究科については、定員に満たない状況が続いていることから、定員の確保に向け、所要の対策を行っていく必要がある。
- ・ 進路支援の充実により高い就職率を実現していることは評価できるが、公立大学法人化以降、県外出身の学生が増加していることもあり、県内企業への就職率については、大きく低下している。学生が静岡県に愛着を持ち、県内企業への就職が増加するような対策を期待する。
- ・ 国際交流を積極的に進めた結果、留学生や大学間協定の数が増加していることは評価できる。一方、協定校へ派遣する学生が減少していることや、教員の海外研修の実績が乏しいことから、制度が積極的に活用されるよう、原因を分析し対策を講じる必要がある。

#### [参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施できていない	D 計画を 大幅に下回る
1 教育	27	2	24	1	0
2 学生支援	10	2	8	0	0
3 研究	10	1	9	0	0
4 地域貢献	13	3	10	0	0
5 国際交流	3	0	3	0	0
合 計	63	8 (12.7%)	54 (85.7%)	1 (1.6%)	0

## II 法人の経営に関する目標

### 1 評価結果と判断理由

#### (1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

#### (2) 判断理由

法人の経営に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の24項目中2項目が「計画を上回って実施している」、22項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1) のとおりの評価に相当すると判断した。

#### (3) 特に評価する項目

語学教育の充実を図るため外国人教員を増員したほか、施設・設備の適切な維持管理のための技術専門員を採用するなど、多様な人材確保に努めた。

### 2 評価に当たっての意見、指摘等

教職員活動評価制度を試行し、教員について評価結果に基づき優秀者を表彰したことは評価できる。今後も評価項目の内容や結果の活用について引き続き検討を行い、教職員の意欲の向上に資する制度となるよう改善していくことを期待する。

#### [参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施できていない	D 計画を 大幅に下回る
1 業務運営の改善及び効率化	18	1	17	0	0
2 財務内容の改善	6	1	5	0	0
合計	24	2 (8.3%)	22 (91.7%)	0	0

### Ⅲ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

#### 1 評価結果と判断理由

##### (1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

##### (2) 判断理由

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の6項目中2項目が「計画を上回って実施している」、4項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1) のとおりの評価に相当すると判断した。

##### (3) 特に評価する項目

- ・ 平成 27 年度の教育課程改正、デザイン学部・学科再編にあわせて、教育内容を分かりやすく広報するため特設サイトを構築するなど効果的な情報発信を行った。
- ・ 新たに中国語サイト及び中国語版大学案内を作成したほか、英語版大学案内を更新するなど、海外向けの広報を充実させた。

#### 2 評価に当たっての意見、指摘等

より多くの方が手軽に大学情報を入手できるよう、より効果的な情報発信のあり方について積極的な検討を続けていくことを期待する。

#### [参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施できていない	D 計画を 大幅に下回る
1 評価の充実	1	0	1	0	0
2 情報公開・広 報等の充実	5	2	3	0	0
合 計	6	2 (33.3%)	4 (66.7%)	0	0



#### IV その他業務運営に関する重要目標

##### 1 評価結果と判断理由

###### (1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

###### (2) 判断理由

その他業務運営に関する重要目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の6項目すべてが「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

###### (3) 特に評価する項目

平成25年12月に発表された静岡県第4次地震被害想定<sup>※3</sup>を受けて、大学周辺の河川氾濫による浸水想定も改めて確認し、防災訓練の内容を見直した。

##### 2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 大規模地震等が発生した場合に活用される安否確認メールシステムの登録率が6割程度と低い。安全管理は大学の責務であるため、登録率を高める必要がある。
- ・ ハラスメント研修への参加率が9割超に向上し、欠席者に対する対応も行っているが、引き続き全教職員にハラスメント根絶の意識を徹底させるよう、十分な対策を行う必要がある。

##### [参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施できていない	D 計画を 大幅に下回る
1 施設設備の整備・活用等	1	0	1	0	0
2 安全管理	4	0	4	0	0
3 人権の尊重	1	0	1	0	0
合計	6	0	6 (100.0%)	0	0

※3 静岡県第4次地震被害想定:駿河・南海トラフ沿いで発生が予想される地震・津波と相模トラフ沿いで発生が予想される地震・津波があった場合の被害の想定